

都中道研

第一二七号

会長 加藤 敏久 (世田谷区立桜丘中学校長)



令和四年度、東京都中学校道徳教育研究会会長を拝命しました世田谷区立桜丘中学校の加藤敏久と申します。本年度もどうぞよろしくお願いいたします。さて、昨年度二月に区立中学校で実施した公開授業、研究発表、講演会は参集型とオンラインを合わせて実施しました。その結果、参加者の方から、多くの好意的な意見が寄せられましたことから、本年度も同様のスタイルで実施してまいります。本年度の本研究会には、私は三つのミッションがあると考えています。一つは、評価について

です。文科省のデータでは、教員の八割が「道徳科の評価を生徒に伝えることは効果がある」ととらえています。一方で、評価の信頼性や信びよう性をどう担保するかを課題としています。「評価と指導の一体化」の観点から、授業改善をいっそう進める必要があります。二つは、研究・研修の充実です。全中道研とも連携し、研究・研修の機会を確保できるよう、各地区にも働きかけていきます。三つは、コロナ禍における校内推進体制です。「考え、議論する道徳」の授業を計画し、組織的に進めること、道徳教育推進教師のICTの担当者との連携についても研究を深めてまいります。人間としてのよりよい生き方について、道徳科の授業の中で先

生が生徒と共に考え、共に語る姿勢を大事にすることは永遠不朽です。東京都中学校道徳教育研究会は、諸先輩方が積み上げてこられた実績をもとに、これからの時代に対応する道徳科の授業の工夫について、東京都の先生方のすそ野を広げながら、着実に歩みを進めてまいりたいと思います。

令和四年度研究部活動計画

研究部長 麻生 隆久

(多摩市立聖ヶ丘中学校長)

研究会開催日時と主な内容

会場 多摩市立聖ヶ丘中学校

第一回四月二十三日(土)

会長挨拶、参加部員自己紹介、

研究主題・活動計画の確認他。

第二回五月七日(土)

全国・関ブロ大会発表内容の概

略説明・質疑応答。

第三回六月十一日(土)

全国・関ブロ大会発表内容の一

次案と部員による検討。

第四回七月九日(土)

全国・関ブロ大会発表内容の具

体案の説明と検討。

第五回八月五日(金)

第一回部員総会・研修会での全国・関ブロ大会のプレ発表の修正内容の説明と検討。
第六回九月十日(土)

全国大会・関ブロ大会発表内容の最終検討。後半の活動予定。
第七回十月十五日(土)

研究発表大会の公開授業者選定。第二回部員総会研修会の実践事例発表者の選定他。
第八回十一月五日(土)

公開授業指導案検討。

第九回十二月十七日(土)

公開授業指導案の実践報告と改善案検討。

第十回一月七日(土)

発表会当日の会場、分担等の検討・確認。

第十一回二月四日(土)

研究発表大会準備

令和四年度研究発表大会

二月七日(火) 十三時三〇分より

〔会場 多摩市立聖ヶ丘中学校 (WEB配信も予定)〕

第十二回三月十一日(土)

今年度の活動のまとめ。次年度の課題等確認。

事務局だより

事務局長 生野 まゆみ

(調布市立第四中学校長)

一 総会・研修会

令和四年六月二十一日(火)

に実施しました。感染症の状況を踏まえ、ハイブリット型での開催としました。会場には約四十名、オンラインは約六十名で、参加者数は合計約百名でした。たくさんの方にご参加いただきました。ありがとうございました。

(一) 総会について

菅野由紀子会長のあいさつに続き、来賓の東京都小学校道德教育研究会会長の松井敏先生(中野区立令和小学校長)、全日本中学校道德教育研究会会長の吉田修先生(府中市立第九中学校長)にごあいさつをいただきました。続いて、令和三年度の活動報告、決算報告、会計監査報告について、ご説明し、ご承認いただきました。また、令和四年度の会長及び役員の推薦についてもご承認いただきました。会長は加藤敏久(世田谷区立桜丘中

学校長)が承認されました。そして、相談役・顧問の推挙、活動計画案、予算案についてもご承認いただきました。

(二) 研修会について

文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官、国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部教育課程調査官の飯塚秀彦氏を講師にお招きし「これからの時代の道德教育」を演題に、ご講演いただきました。内容は、①道德教育実施状況調査の概要、②道德教育を推進する上で大切にしたいこと、③道德科の授業で大切にしたいこと、でした。私たちが直面する課題に対するご指導、ご助言をお示しいただきました。

二 第一回部員総会・研修会

令和四年八月二十三日(火)に実施しました。六月の総会・研修会同様、ハイブリット型の開催となりました。夏季休業中の実施でしたが、会場には約三十名、オンラインは約二十名で、参加者数は合計約五十名でした。たくさんの方にご参加いただき、感謝しております。

(一) 部員総会について

加藤敏久会長のあいさつに続いて、来賓の東京都教育庁義務教育指導課 指導主事の浅井剛様、全日本中学校道德教育研究会会長の月田敏行先生(江東区立有明中学校長)にごあいさつをいただきました。各部からは、滞りなく計画にそって活動をしているとの報告がありました。研究部からの報告は、研修会で行いました。

(二) 研修会

麻生隆久研究部長(多摩市立聖ヶ丘中学校長)より、研究部の活動について報告がありました。続いて研究部員による、研究の報告がありました。

第五十六回全国日本中学校道

徳教育研究大会山形大会(WEB開催)での発表者である戸上理子研究部員(文京区立第九中学校)からは、大会主題「いのちを輝かせようよい生き方を拓く道德教育」確かな教材研究に根ざし他者と響き合い自己を見つめる道德

科の授業づくりを受け、「道德教育を推進する指導体制の在り方」について研究報告がありました。

道德教育推進教師の役割

1. 道德教育の全体計画の作成に関すること
2. 全教育活動における道德教育の推進、充実に関すること
3. 道德科の充実と指導体制に関すること
4. 道德用教材の整備・充実・活用に関すること
5. 道德教育の情報提供や情報交換に関すること
6. 道德科の授業公開など家庭や地域社会との連携に関すること
7. 道德教育の研修の充実に関すること
8. 道德教育における評価に関すること

研究の概要



OJTを3つの視点に整理し、指導体制の構築を目指す

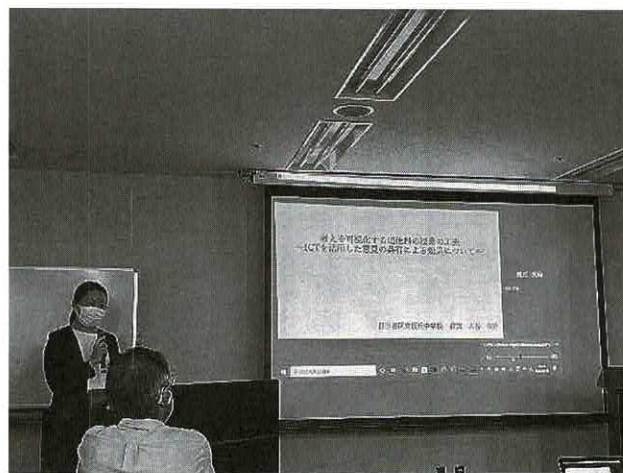
第五十一回関東甲信越中学校

道德教育研究大会群馬大会(紙上発表)での発表者である大谷秋音研究部員(世田谷区立桜丘中学校)からは、大会主題「自己の生き方を考え、他者と共によりよく生きようとする生徒を育む道德教育の創出」を受け、「ICTを活用した道德教育」について、研究報告がありました。実践女子大学非常勤講師の福田鉄雄先生を講師に招き、ご指導、ご講評をいただきました。

また、福田先生には「生徒も教師も楽しい道德科の授業づくり」を演題にご講話いただきました。内容の一部をご紹介します。

◆講演の内容（一部）

令和元年の道德科が新しい教科としてスタートした時代に少しさかのぼり、いくつか考えられる点を挙げてみます。まず、①変わった時に生徒に周知したか、②内面的資質を育てるのではなく、すぐに行動化を求めているのか、③気持ち、気持ちと「気持ち」を強く言う心情理解に終始して



いないか、④心情理解は大切だが、読解道德になっていないか、⑤答えを言わせて、それきりの状態にしているのか、⑥改訂の趣旨について教師が理解しておらず、評価だけ大変だと言っていないか等です。

新しい道德のキーワードは、考える道德です。読み物道德から考える道德への転換。押し付け道德から考える道德への転換。考え、議論する道德。これが、私たちが求める道德科の姿です。道德科の授業づくりとして、発問・話し合い・板書が重要です。多面的・多角的、中心発問を十分吟味し、分かり切ったことを聞かない、補助発問は事前に用意する、中心発問はそれで勝負できる必要がある等は重要です。道德の時間が楽しいという意見には、議論したことが面白い、自分の考えを自由に述べられる等があります。実際の授業では、ずっと座って、「はい、書いて」、「発表して」、「書いて」という静的な授業がありますが、もっと

動的なものを取り入れたら、生徒が活躍できると思います。順指名、列指名をずっと行うと、その列の生徒は緊張しますが、他の生徒は気が楽です。また、最後まで同じような意見が出た時に修正できない。二人当てたら違うところの生徒を意図的に指名した方がよいです。それから、人の意見を聞いて考えが変わることがあるわけですから、「書いたものを発表して」と指示すると、五番目に指名された生徒は、書いたことと自分の考えが変わっている可能性があるのです、自分の前の思考を言わせてしまうことになります。

発問カードはやはり課題としていることを明示することが重要です。「気持ち」を聞いているのに、生徒たちが答えないと、「この時なぜだったのだろう」と、発問を変えてしまう時があります。ですから、きちんと明示する。板書の計画はしっかりと立てる。また授業が終わった後、スマホで一枚板書写真を撮っておくとよいです。

（三）今後の研修会等について
各学校に案内を送付します。
また、本研究会のホームページでもご案内いたします。ふるってご参加ください。



（一）第二回部員総会・研修会
令和五年一月二十日（金）
午後二時三十分より
中野サンプラザ

（二）研究発表大会
令和五年二月七日（火）
多摩市立聖ヶ丘中学校

研究部より

研究部長 麻生隆久

(多摩市立聖ヶ丘中学校長)

一 研究主題

「教科の特質を生かしつつ、これからの時代に対応する道德科の指導の工夫」

二 主題設定の理由

昨年度は、新型コロナウイルス感染症による様々な対応に追われるとともに、GIGAスクール構想やSDGsの推進、いじめ問題への対応との関連性など、学校教育全体が大きな変革を求められ道德科の指導においても、それらの点との関連が喫緊の課題となりました。本研究会でも、こうした課題に対応し、「一人一人が自己を見つめる時間」「価値や生き方の自覚を深める時間」「主体的に道德性を身に付けていく時間」である道德科を今こそ大切に、生徒も教師も共に人間としての生き方を深く考える道德科の特質を再確認する必要がある。」と考え、さらに、SDGsやGIGAスクールなどの変化の激しい時代に対応する国

や東京都の施策と関連付けた道德教育におけるカリキュラム・マネジメントの考え方、教材や資料などについて研究し、より質の高い道德科の授業の実現を目指し、ねらいとする成果をあげることができました。その中で、ICT化が進むことによつて、「主体的・対話的で深い学び」を実現するためのICTの活用が課題としてあげられました。今後さらにICT化が進み、予測不可能と言われる社会において、「人間としての生き方」を考える道德科の役割がますます重要になってくることを考え、昨年度の取組の成果と課題を活かした研究の継続を考え、研究主題といたしました。

また、今新たに求められている個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実をどのように実現していくか、道德教育を充実させるための校内体制をどう整備していくかという視点も加えて本年度の研究に取り組みこととしました。

そのために、今年度も三つの柱

を立てて、研究活動をすすめています。一つ目は、道德教育をめぐる今日的な課題に対応した研究を推進し、全日本中学校道德教育研究大会(以下、全国大会)及び、関東甲信越中学校道德教育研究大会(以下、関東大会)の発表に向けて、内容を深めていくこと。二つ目は、それらの成果を踏まえ、教材研究および指導方法についての研鑽を深め、二月の研究発表会の公開授業で成果を見ていただくこと。三つめは、東京都全体の道德科の取組状況と課題等を整理し、道德教育の充実を目的としたアンケート調査の実施です。全国大会に向けては、文京区立第九中学校の戸上理子主任教諭が、「道德教育を推進する指導体制のあり方」指導力向上を目指した校内OJT体制の構築」と題してオンライン発表の準備を進め、関東大会に向けては、世田谷区立桜丘中学校の大谷秋音教諭が「考えを可視化する道德科の授業の工夫」ICTを活用した意見の共有による効果について」と題して、誌面発表の準備を進めています。また、一年間の活動の成果は今後の東京都の道德教育の充実のため、研究紀要にまとめ、都中道のHPにも発表いたしますので、引き続き、関係の皆様のご理解と御協力を賜りますようお願いいたします。

編集後記

日頃より、都中道研の活動にご理解、ご協力いただき、ありがとうございます。

この度、広報第二二七号をお届けいたします。今後も、ご協力の程、よろしくお願いいたします。

広報部

部長 佐藤 正敏

(足立区立第十四中学校副校長)

副部長 戸上 琢也

(渋谷区立代々木中学校主幹教諭)

都中道研のホームページ

<http://www3.schoolweb.ne.jp/weblog/index.php?id=1350004>